

翻訳にあたってのヒント

その3

3. 肩書きについて

英語の肩書きは、日本企業のそれと比べて、多岐にわたっています。例えば、副社長は「vice president」ですが、これに「senior ~」と付いたり、副社長が何人も在籍している会社はざらだそうです。そこでここでは、肩書きについて、少しばかり述べたいと思います。

秘書：日本語では、「秘書」という一語で事足りるこの言葉も、米国人が使っている言葉を拝見しますと、以下のように様々な呼称があります。

Executive secretary, Administrative (Personal/Executive) assistant, Office administrator, Staff assistant, Executive (staff) coordinator, Executive office manager, Executive coordinator, Administrative support specialist

これらの用語は、辞書には載っておりません。そこでこれらの用語に出くわした際には、上述の範例 [カタカナ語 (秘書)] を活用なさって無駄な時間を省いてみてはどうでしょうか。

CEO (最高経営責任者) の概説およびその他の最高責任者：

Chief Executive Officer の略。米国の会社では、株主の利益を代表する取締役会 (ボード) が経営の責任と権限をエグゼクティブ・オフィサー (執行重役) に委譲します。CEO は、執行重役の長であり、その下で社長がCOO (Chief Operating Officer/最高業務執行責任者) とし

て現実に会社を運営する形をとるケースが多く、CEOは、ボードの会長を兼務する例がほとんどで、大きな権限を握っています。

日本企業ではボードと執行重役の区別がなく、社長・頭取に権力が集中し、CEO、COOの両方の役割を果たす場合が多いのですが、最近ではオーナー企業などで、会長がCEO、社長がCOOという形で役割を分担する動きも出てきております。米国では、CEO、COOの下に財務戦略を担当するCFO (Chief Financial Officer/最高財務執行責任者)、情報システム戦略を担当するCIO (Chief Information Officer/最高情報執行責任者)などを置く企業も増えてきています。(出典：日経新聞)

他に、最近では、CCO (最高広報・広告責任者)、CHO (最高人事責任者)、CMO (最高販促責任者)、CPO (最高生産責任者)、CTO (最高技術責任者) という肩書きを使う企業も現れています。

CEOは、President や Chairman の後ろに付け本当に実権を握っている社長・会長であることを示します。これは逆に言えば、CEOが付いていない社長・会長はお飾りで、その会社には見えない実権者がいるという合図であるとも考えられます。しかし万事を灰色に包みたがる我が国では、まだCEOを名刺の肩書きに刷り込む習慣がありません。またアメリカを嫌ってイギリスに帰化したがるアメリカ人もいます。これはひとえに米国の大統領制に関係しているようで、こういったアメリカ人の中には、共和制より立憲君主制を好む者が圧倒的に多いそうです。というのは、国の全権が大統領ひとりに集中しておらず、国王と首相に二分されている政体だからということだそうです。日本もまた、事実上は、天皇と首相の立憲君主制の国であり、こういった二重構造の国にはCEOはなじまないようです。さらに日英両国には万事灰色＝不透明さを好む風潮もあります。ともかく、イギリスに帰化するアメリカ人の大半が、大統領制のむき出しの強権ぶりはもとより、アメリカ社会全般にわたるむき出しぶり、露骨さに閉口しているそうです。企業リーダー向けのハンドブックを書いておられる、ある著名な米国の大学の教授は、CEOの必要条件として、(1) **technical competence** (自分が出世してきた職階はもとより、他の分野のすべての側面を掌握できる能力)、(2) **people skills** (自他の能力と欠点を把握し、欠点の補い方に通じ、他人との共通のニーズをつかみ、表現できる能力)、(3) **conceptual skills** (ビジョン)、(4) **judgement** (状況判断能力)そして(5) **character** (野心、能力、良心が完全な均衡を保っているのが理想)を挙げております。

ちなみに英語では、「誰それを肩書きで呼ぶ」を「**call someone by his/her title**」と言い、「誰それを『さん』付けて呼ぶ」は「**address someone's last name followed by san**」と言います。和文英訳で活用できる文例だと思います。

4. 「must」、「have to」、「should」、「ought to」のおおざっぱな違いについて

これらの違いについては、何年英語を勉強してもつかみにくいと思われるので、文例を併記して、大まかに整理してみます。

まず、**must** :

話し手の主観的命令を示す言葉で、これらの中でも一番強く、場合によっては聞き心地の良い言葉ではないと見なされます。

You must stay in bed. 寝ていなさい(よ)。(命令口調)

次に、**have to** :

～したほうがよい、～しなければ駄目だよ、というニュアンスがあるようで、抵抗なく聞ける言葉のようです。

You have to stay in bed. 寝てたほうがいいんじゃないの。

三番目に、should :

義務表現としては弱い、抵抗なく聞ける言葉のようです。

You should see Hamlet. ハムレットを見るべきよ (私は薦めるわ)。

最後に、ought to :

should の主観的判断に対して、客観的な必要性を表す言葉のようです。

You ought to see Hamlet. ハムレットを見逃すべきではない (誰もが知っている)。

5. カッコについて

一口に「カッコ」といっても、下記のようにいろいろなカッコがあります。

- 「」 かぎあるいはかぎカッコ
- 『』 二重かぎ
- () 丸カッコあるいはパーレンカッコ (round brackets or parentheses)
- (()) 二重パーレンあるいは二重カッコ
- [] きっこう
- [] ブラケットあるいは角カッコ (square brackets)
- <> 山がたあるいはギメ (angle brackets)
- { } 中カッコあるいはブレース (brace[s]) これは角カッコの片方も示します ([or])
- 【】 すみ付パーレン
- 《》 二重ギメ
- "" 二重引用符あるいはダブル・クォテーション・マーク
- ' ' 一重引用符あるいはシングル・クォテーション・マーク

ここで、問題にしたいことは、「カッコの中にかっこを入れる」場合です。そこで日本語の場合と英語の場合の各事例を採り上げてみます。

日本語の場合： 「 ” ~ ”」または「『 ~ 』」他に、「(~)」、(「 ~ 」)、(『 ~ 』) または《(~)》のパターンも考えられます。

英語の場合： [(~)]、(< ~ >)、[(~)] または " ' ~ ' "

私は、翻訳に限らず文章を書く際には、主に上記の6パターンを使っています。以上、ご参考ください。

6. 形容詞について

形容詞は、原則して形容詞を修飾しませんが、以下のような例外が見られます。

形容詞の順序の一例：**the two clever young Japanese women**

冠詞など＋数量＋大小・形＋性質・色＋新旧＋所属・材料＋名詞

その他の場合には、副詞＋形容詞の形が、英語を母国語としない日本人が英語を表記する場合の鉄則だと思います。

7. 「構成する」について

「構成する」は、翻訳（特に和文英訳）する場合、注意が必要です。

以下に分かりやすくまとめましたので、ご参照なさってください。

AはBを構成している（この場合のAは部分、Bは全体）。

部分（A）**constitute (compose/form/make up)** 全体（B）。

AはBで（から）構成されている／成っている（この場合のAは全体、Bは部分）。

全体（A）**be composed (or made up) of** 部分（B）。

全体（A）**consist of** 部分（B）。

全体（A）**be formed of** 部分（B）。

全体（A）**comprise** 部分（B）。

補足： AはBの一部となっている。A **comprise(s) a part of the** B.

8. 「そうです」

和英辞書の表現の乏しさにあきたらず、7年かけて私がひろい集めてきたこの言葉の言い回しを、ここで一挙に皆様に公開いたします。それぞれの日本語訳も文脈（これらの用語が出てきた前後関係）に応じてうまく訳出されておりました。ただし、これらの訳がど

れもそのまま当てはまるという訳ではないでしょうから、文脈に応じてうまく使い分けて、会話や翻訳に活かしていただければ望外の幸せに存じます。

That's true./I can see that./That's it./True./So it is./So I am./So you are./So he [she] is./So we [they] are. (そうなのです)

I imagine so. (そう思います)

I guess not.(そうは思いませんね、あるいは「否定を受けて」そうですね)

I believe I will./I'd say so. (そう思います/おそらくそうでしょう)

I agree. (私もそう思うわ)

I feel much (just) the same way. (私もそのような気がします)

I agree with you. (同感です)

I suspect so. (そうかも知れませんね)

I'd say so. (そうだと思います/その通りです)

I'd imagine so. (そうだと思いますよ)

I wish that were the case. (そうだといいのですが)

I know./I guess so. (そうだね)

I don't doubt it. (そうですね)

I wonder. (そうですねか)

I think (or suppose) so. (そう思いますね)

I can believe it. (そうですね)

I doubt it. (そうは思いません)

I am all for ~. (~ に大賛成だね)

Yes, I agree. (ええ、同感です)

That's just what I was going to say. (それを言いたかったんです)

That's the gist of it. (そういうことなんだ)

That's the general idea. (そういうことなのです)

That's how it works. (そういうことになります)

That could be true. (そうかもね)

That's right. (そうですね)

You can say that again. (まったくその通りですよ)

You could put it that way. (そう言ってもいいですね)

You may be right. (そうかも知れません)

You could say that. (そうです [よ])

You bet. (もちろん)

You are right. (そうだよ/その通り)

So that's it! (そういうことだったのですね!)

So I was told. /So I hear. (そうらしいね)
Sure thing. (もちろん/そうだと)
Suits me! (いいとも)
It happens. (そういうこともあります/そういったことは起こります)
It will. (そうなりますとも)
It's true. (そうね)
Could be. (そうかも知れない)
We do indeed. ([確かに] そうです)
Of course. (もちろん)
Quite right. (まったくその通り)

その他の「その通り(だ・です)」の英語表現を以下に列記します。

一語で表される賛成・納得の表現：

Yes./Yeah. Right! True! Certainly! Precisely!

(もう少し賛成・同意の度合いが強いもの — Absolutely! Definitely!

Exactly! Quite! [まったくその通り/まったく同感だ/そうだと/絶対さ/決まってるよ] のニュアンスがある)

That's it. (図星だ) You said it! (図星だ!) You've got it. (図星だ) You got it. (図星だ) You've guessed right. (図星だ) No doubt. That's true. True enough.
Right. Precisely. Right on. How true. I'll say. You've got the right. Isn't that the truth. There you have it. That's it all right. How right you are. It sure is. You're telling me. (おっしゃる通りです/ [言われなくても] 百も承知だ/まったくその通り [だ] /本当にね [ですね]) That's correct. I suppose you're right. That's the ticket. That's the answer. You could say that again.等々

反対・拒否の表現：

I don't think so. (私はそう思いませんね)

I can't (or don't) agree. (同意できませんね)

(I think) That's wrong. (それは違うでしょう)

That's not right. (そうじゃないでしょう)

I disagree entirely. (まったく反対ですね)

No way! (だめだよ/とんでもない)

Not at all! (まさか、そんなことは)

Absolutely not! (とんでもない。絶対違うよ)

Come off it! (ばかなことをいうな)
You must be kidding! (冗談でしょう)
You can't be serious! (まさか)
That's silly. (くだらない)
Don't be silly. (ばかなことをいうな)
I am [all] against ~. (~ には [大] 反対だ)

補 足 - 「I am afraid」を付けて柔らかくする否定の表現:

I am afraid I can't agree with you. (どうも賛成しかねますね)
I am afraid that's not true. (それは違うんじゃないでしょうか)
I am afraid I entirely disagree. (まったく反対ですね)
I'm afraid so. (「否定的なことに対して」そうですね)
I'm afraid it is. (「あまり芳しくないことに対して」そうなのです)

いやはや、実に多彩です。この他にもまだまだあると思いますので、皆さんの中に他の表現を知っている方がいらっしゃいましたら、ご教示願いたいと思っております。

9. 「以上」の訳出法

「～以上」とくるたびに、「～ or more」と訳していたのでは、何とも味気ないと思えますし、訳に深みもありません。ここでは、私のメモから、いくつかのバリエーションをご紹介します。

～ or higher (コンピュータ/プロセッサの場合)
～ or later/～ and above (バージョン/ソフトウェアの場合)
～ level and up (～レベル以上)
1,000 or more/4MB or more/～ and up (数字やメモリー)
～ or above/～ or older/～ and up (年齢)
～ or heavier (重さ) ～ or longer (長さ) - この形態では形容詞の比較級を使います。
numbers from 1,000 upward (1,000 以上の数字)等々

10. Often と Frequently (頻度の度合い) : <word:頻度>

He frequently visits me.

He often visits me.

(彼はよく私のところへ訪ねてきます)

どちらも「しばしば／よく」という頻度を示す副詞です。ところが、**frequently** が「時間的な間隔が比較的短い」ことを暗示しているのに対し、**often** が「時間的な間隔が規則正しい」ことを暗示している語です。また、**often** のほうが **frequently** よりもくだけた言い方です。そこで他の「頻度の副詞」と **often** の頻度の度合いがどの程度かを比べてみます。

(A > BでAの頻度が高いことを示す)

*[頻度の度合い] **always > usually > often > sometimes > occasionally** / [反対] **not often** めったにない、**hardly (or rarely)**: 肯定文で使う。 / ** **usually** (通常、たいていは) は、日常の動作など具体的な頻度を表すときに用いる。一方、やや抽象的な一般論の場合には **generally** (通常は、一般には) を使う。

11. 無生物主語の文章

無生物を主語とする日本語は、比喩や擬人的な表現に限られ、あまり普通ではありません。ところが、英語では、無生物主語の表現がほとんど無制限に使われ、英語の一大特徴となっています。このような文章で目的語が人間になっているものを訳すコツは、「主語のおかげで～」、「主語を通じて～」、「主語によって～」、「主語があるゆえに～」、「主語の働きにより～」、「主語のため～」、「主語により～」、「主語で～」等と、なるべく「主語は(が)～である」という恰好を避けて、あくまでも人間を主体として訳するというやり方です。また、以下のようにまず頭から訳してイメージをつかんだり、あるいは文章を別の形に置き換えることができる場合が往々にありますので、英語の文章を別の形に(かいつまんで言えば、主語を変える)変えてみてから訳しあげるということも一つの手でしょう。

The news shocked me. = I was shocked at the news.

まず頭から訳す(そのニュースがショックを与えたのは私であった。)

そのニュースは、私にショックを与えた。= 私は、そのニュースにショックを受けた。= そのニュースに(を聞いて/知って)、私はショックを受けた。

The rain forced them to cancel the game. = They had to cancel the game because of rain.

まず頭から訳す(その雨が彼らに余儀なくしたのは、その試合をキャンセルすることだった。)

雨は、彼らに対してその試合をキャンセルするように仕向けた。= 彼らは、雨のためその

試合をキャンセルしなければならなかった。＝雨天により、彼らは、その試合をキャンセルするよう余儀なくされた。

What is my pen doing on your desk ? = Why is my pen on your desk ? = How come you

have my pen on your desk ?

まず頭から訳す（何で私のペンが作業をしているのが、あなたの机の上なのですか？）

何で、私のペンがあなたの机の上で作業をしているのか？＝ どうして私のペンがあなたの机の上にあるのですか？

＝ なぜあなたは私のペンをご自分の机の上に置いているのですか？

12. 窮極の舌鼓、tongue twister（早口言葉）！？

今回の締めくくりとして、早口言葉をご披露します。どのような意味であるかは、皆さん一人ひとり、独力で翻訳に挑戦してください。

I never felt felt that felt like that felt felt.

この文章は、文法をきちんと勉強された方であれば、正確に訳せるはずですが。意味が分かった方、分からない方、呂律（ろれつ）が回らない方、私宛までご連絡ください。

では、またの機会にお会いいたしましょう。 **Till then, I wish you a Merry Christmas and a happy New Year !**